



写真1

逆さ富士を模した逆円錐形の展示棟が水盤に映り込むことで水面に富士山の姿を作りだす

施設の概要

富士宮市は世界遺産富士山を望み、その構成資産である富士山本宮浅間大社等も擁している。また、市街地だけでも10数カ所に湧水スポットが存在し、1日約20万トンの水が湧き出している一大湧水地である。

静岡県富士山世界遺産センターは、平成29年12月に開設した、富士山を後世に守り伝えるための拠点施設であり、逆さ富士を模した逆円錐形の展示棟と前面に広がる水盤が特徴の施設である。



富士宮市街

景観形成のポイント

富士山を北側に望み、湧玉池を源泉とする神田川の西側に建つセンターは、「富士山からの湧水を水盤に引き込み、環境循環と象徴を反映させる」をコンセプトに、富士山の湧水を水盤に活用し神田川に循環させることで、湧水を活用した景観を形成している。

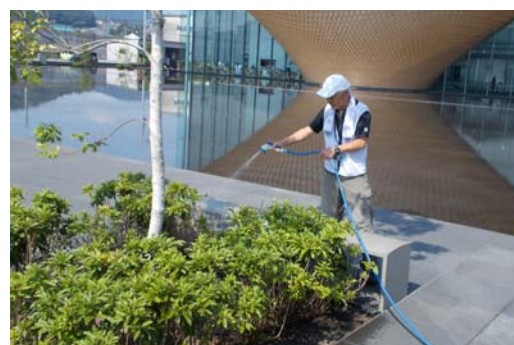
水盤に逆円錐形の展示棟が映り込み、富士山の姿を作りだす他、富士山を背景に、水に映った本物の富士山の姿が組み合わせさり、新たな景観を創成している。



水盤に映り込む展示棟と富士山

景観形成の活動

設計プロポーザルにて135者の応募から、民間の有識者等の厳正な審査で設計者を選定、設計段階、施工段階において住民説明会等を開催し、周辺住民の他、富士宮市議会や富士宮観光協会等からも意見を募って建設した。建設後の樹木管理や清掃等の景観管理については、周辺住民をはじめとした富士山のことが好きな140名の登録ボランティアスタッフの協力を得て実施している。



ボランティアによる樹木管理